

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：22019

実態	「学ぶ力」	
	成 果	課 題
	◇札幌市の共通指標から、「分からないことがあったとき、友達や先生に聞くようにしている」という設問に対し、肯定的な回答が 86%、「学習で困っている友達に声を掛けたり一緒に考えたりするようにしている」という設問に対し、肯定的な回答が 83%と、いずれも非常に高い数値になった。 ◇本校の研究主題である「学びをつなぐ子どもの育成」から、他者とのつながりを意識した指導や関わりを一年間通して行った結果が実を結んだと言える。	◇札幌市の共通指標から、「自分で計画を立てて勉強している(69%)」や「自分の意見を進んで発言しようとしている(67%)」の値が、他の項目と比べて低い傾向にある。 ◇自己実現の方法（自分で決める、考える、やってみる）に対する経験や自分の考えを認めてもらったり理解してもらったりする経験の少なさが課題としてあげられる。 ◇課題に対して学び方を自己決定し、自ら学びを進めようとする主体的な姿や自分の考えに自信をもち伝えようとする姿を目指し、教材研究や教師の関わりを工夫していく。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の態度〉の現状と課題	
	◇札幌市の共通指標の相互承認に関連する項目において、「自分が必要とされていると感じる(73%)」と、他の項目が90%前後と高い値になっているのに対し、この項目だけが肯定的な回答の割合が低い傾向にあり、前年度からの変化も少ない。 ◇自己肯定感に高まりに対して自己有用感をどのように高めていけるかが課題であることから、教師側が、授業を含めた日常の活動の中に、意図的に協働的な活動を組み込み、子どもたち自身がお互いを認め合いながら高めあっていけるよう関わっていくことが重要であると考えます。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力		
自ら課題を見付け、自ら学びに向かい、自ら問題を解決する力		
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	(1)研究主題「学びをつなぐ子どもの育成」に向かい、教員が授業を公開し交流する機会を設ける。 (2)授業づくりにおいて、「課題解決までの見通し」や「課題解決のための具体的な方法」をより子ども目線で設定していく。 (3)他者の考えを自分の中に取り込み生かしていく力を身に付けるために連続的な経験を積むことができるように単元構成を見直す。 (4)教材と子どもを「つなぐ」、子どもと子どもを「つなぐ」中で、子どもが自分の考えをもち、その考えを表出できる子どもに変容するような関わりを行っていく。	①よりよい学級・学校にするための活動の充実 →係や当番活動から責任をもって取り組む態度を醸成 →学級の様々な課題を議題にした学級会の実施 →子どもが主体となり計画・実践し学校運営に携わる委員会の実施(前後期において) ②自分たちの生活を振り返る場の設定 →日常の学習におけるリフレクション →委員会におけるリフレクション
	「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について	
	◇主に①において、クラスルームを用いることで話し合った内容や活動の進捗状況を共有させたり、ドキュメントやフォーム等で共同編集しながら作業することで、子どもの考えや声をつなげられるようにする。 ◇主に④において、子ども同士をつなぐためのツールとして、オクリンク+を中心に活用していく。	

<本プログラムの実行に向けて>

新年度	〔一人一人の教職員〕	〔学校全体〕	次年度へ
◇本プログラム共有 ・職員会議(6月19日) ・HP掲載 ・パートナー校間研修	◇日常の実践・教育活動 ◇各自の研修…札幌教研推 年次研修等	◇日々の実践交流／校内研修 ◇児童の育ちを共有する場の設定 学年研修、学運協、パートナー校連携	◇学校評価 ◇成果と課題の共有 ・研究全体会(3月中旬)